

## 「男性の生きづらさ」はどこから来ている？

パルシティ江東通信 vol.44（2022年2月25日発行）では、「オールド・ボーイズ・ネットワーク（男性中心の組織文化や人間関係）」で創られてきた、ビジネス上での暗黙の了解やしきたり（負担の重い仕事や長時間労働は男性が行う、昇格者を無意識に男性から選ぶ、等）が女性活躍を阻む要因のひとつであることを述べました。しかし、今、この「オールド・ボーイズ・ネットワーク」で培われてきた文化が、男性自身をも苦しめていることが分かってきました。

### 男性同士で与え合う「男らしさ」のプレッシャー

「女性が一步踏み出すきっかけをつくり、ともにインクルーシブな社会をつくる仲間を増やすこと」をミッションとして活動している、Lean In Tokyo という団体があります。この団体が、日本国内で勤務する性自認が男性の方を対象に『男性が職場で感じる「生きづらさ」と DE&I 推進に関するアンケート<sup>1)</sup>』を実施しました。その結果を見ると、64%の男性が職場において「男らしさ」という固定観念やプレッシャーにより多少なりとも「生きづらさ」を感じていることが明らかになりました。具体的な場面としては、「昇進に対して野心的でなければいけない・競争に勝たなければいけないというプレッシャーを感じる時」や「長時間労働や休日出勤を許容できなければいけない風潮」が上位に挙がっています。

そして、このプレッシャーを感じる原因として「社会全体の風潮（54%）」が最も多く、次に「男性の直属の上司（23%）」、「男性の同僚・知人・友人（10%）」と続きます。調査では、『男性が感じる「男らしさ」のプレッシャーは、実は男性同士で与え合っているものである可能性が示唆されています』と指摘しています。



### 「こうあるべき」から「こうありたい」へ

例えば、働き盛りと思われる年齢の男性が平日の昼間に住宅街を歩いていると「不審者」扱いを受ける…このような「普通の男性は平日の昼間は働いているもの」といった偏見をなくしていくことも、男女共同参画社会を実現する第一歩になります。男性が「一家の大黒柱」として働き続けることを求める社会は、裏を返せば女性に「家庭を守り、男性をサポートすべき」と求め続けることに繋がっているかもしれません。男性の人生の価値観が「仕事（ここでは特に、定年まで正社員で働くこと）」だけに置かれるのではなく、「多様な働き方」「私生活の充実」「育児の専念」など、ライフステージやその時々状況や考え・目標などにより柔軟に変えることができ、それを周囲が受け入れることで、誰もが自分の望むワーク・ライフ・バランスを実現することができそうです。

【出典・引用・参考文献】

i. Lean In Tokyo「男性が職場で感じる「生きづらさ」と DE&I 推進に関するアンケート」調査結果 <https://leanintokyo.org/20221107-1/>